

## 確定拠出年金導入企業様 訪問レポート

### 「中小企業の従業員にも 大企業なみの老後の安心を提供する」

確定拠出年金には個人型(iDeCo)と企業型があります。企業型には導入企業様には福利厚生充実と従業員への投資教育の浸透というメリットがあり、個人型のiDeCoと比較するとさまざまなメリットが従業員にもあることが分かります。今回は保険アイマークがコンサルティングさせていただいた松葉倉庫さんにインタビューさせていただきました。

#### 確定拠出年金を導入されて半年経ちましたね。

健康経営・確定拠出年金・保育園など含め従業員の働きやすさの追求を前提に取り組んでいる制度だということが少しずつですが理解されてきたと思います。なぜ会社がそんなことまでするのかという意見もあったのですが何か月か継続して制度を走らせていく中で自然に関心を持ってくれるのかなと思います。自分の将来のこととか資産運用のこととかに関心を持つということからスタートすれば良いと思います。関心を持てば、なんでこんな制度を会社がやってくれたのかという理解にもつながってくれるはず。関心さえ持てば、前向きに関わろうと発想が変わっていく、時間軸を長くにとって制度導入をしていますので、そこからスタートで十分だと思っています。

#### 健康経営はどんな位置づけなんですか。

健康というと身体の健康をイメージしますが、安心して働けるという意味で健康をとらえれば、「安全な労働環境」「福利厚生充実」「子育てに対する支援」なども健康経営として捉えられると思います。就職→結婚→出産→育児→職場復帰 + 子育て という社会人人生の入り口の大切な部分をケアすることが、会社にとっての健康経営のスタートです。勤続中は身体のケアや職場環境の改善、健康増進バンクなどで健康経営を実践していく。そして人生の後半、会社を退職してからの老後の人生をケアするのが確定拠出年金です。健康経営というのは、身体の健康だけでなく、安心して暮らせる、安心して働けるという意味でもとらえています。

#### 確定拠出年金を保険アイマークから導入していただいたことについて、お話しいただけますか。

新聞や雑誌などで見る情報で気になったものは、



松葉倉庫株式会社  
代表取締役 社長  
松葉 秀介氏

まず会社で取り入れてみようという気持ちです。確定拠出年金もそのひとつで、結構早い段階から取り組みたいと思っていました。わが社ぐらいの規模だと難しいかなとも思ったんですが、自分のこだわりとして、やるんだしたら早く実現したいと思っていました。もうひとつこだわっていること。地元で考え方が分かっている経営者と組みたいということです。自分のことを理解している経営者なら「松葉さんはこういう人だから、こんな提案なら喜んでくれるだろう」と分かるはずなんです。そんな人と組みたいと思っています。誰でも良いというわけではなく、相手を選んで確定拠出年金ならアイマークの村松さんという人を信頼して相談を掛けたというのが本音です。

#### 資産運用について感想をお聞かせください。

私としては、投資というものにあまり興味がなかったのですが、確定拠出年金の導入をきっかけに長期的な運用というものを意識している自分に気が付きました。株式投資というと、私たちの前の世代は投機的にとらえている先輩がたくさんいます。その人たちに育てられた私たちは株式というギャンブル性が高く、株券も紙切れになってしまうというイメージからのスタートです。保険アイマークさんの研修を受けて、投資信託を積立で買っていくということは、安くなった場合にもメリットがあると思うようになりました。ただ、社員の中にある投資に対するマイナスのイメージを払しょくしていくために保険アイマークさんにはもっと活躍して欲しいと思います。特に若い社員が増えてきていることも踏まえ、若い人こそ、長期投資のメリットを享受できるんだということを広めてくれるように期待しています。老後の安心も含めて広い意味の「健康経営」だと思っていますので、資産形成に取り組みやすい環境を保険アイマークさんに整えていただけますよう期待しています。



LIFE SHIFT という本をご存じでしょうか？この本は、人口統計学を駆使すると人類の平均寿命は2107年(今から89年後)に100歳を超えるだろうと予言します。

そこから「人生100年時代」というキーワードが生まれ、この頃はCMなどでもほぼ毎日見かける標語になっています。そうなってくると長寿は「寿」ではなく「リスク」だと捉えて国家・社会のシステムの考え方をクッパとひっくり返す必要が生じてくるわけです。

日本人の平均寿命の推移と将来推計



日本人の平均寿命は2017年で男性81.09歳、女性87.26歳です。驚くことに1950年の平均寿命を確認したら男性58.0歳、女性61.5歳。約70年でこんなに伸びたのは、戦争も関連しているとは思いますが驚くしかありません。1950年ごろなら私(56歳)もそろそろ寿命です。世界に類を見ない程の長寿化を実現し続けている日本では、「健康寿命」を高めましょうと政府・民間が一丸となって提唱しています。「健康寿命」とは日常的に医療・介護に依存することなく自立した生活ができる期間です。現役時代に「健康貯金」を

どれだけ蓄えたかで「健康寿命」が決まるような気がします。会社が退職金を支払うように、現役中に「健康貯金」をできるだけ積立させてリタイアさせてあげることが、これからは福利厚生のひとつとして大切になってくるかもしれません。



さて、健康寿命に関連して、「資産寿命」という言葉も金融の業界では時々聞くようになりました。退職したタイミングで保有している資産がどれほどの期間で無くなってしまうのか？考えると恐ろしいことですが、今までの日本人のデータを見ると実は目減りしていません。どうして？年金が厚く支払われ、預貯金の金利もそこそこあった時代のデータだからかもしれませんが、日常生活のために預貯金を取り崩していくことに恐怖を感じる国民が多かったのかもしれない。

さて、アメリカで老後の金融資産を4%ずつ取り崩したらどうなるか？という研究があります。それによりますと、米国の株式と米国の債券に50%ずつ資産配分したとすると30年間は資産が無くならないと論じています。インフレの影響まで考えると、現在すでに年金を受け取っている方も年率4%程度の利回りを目標として資産運用してみたいと思うのですが、みなさんはいかがですか？